

来館者

10月の博物館来館者

夏季の北海道旅行の途中に来館する家族, 夏休みが終わって道東各地からの修学旅行, 紅葉狩りの行程に組み入れての団体などが一段落すると, 小学校6年生理科「土地のなりたち」の学習のための博物館利用が多くなります。そんな中, 久方ぶりのお客さんもありました。写真で紹介します。

○足寄小学校6年生のみなさん

館内で化石や骨格を見たあと, 螺湾で地層見学, 化石採集をおこないました。シオワッカも観察。



○新得町やすらぎ荘のみなさん

聴覚・言語障害者養護老人ホームに入所のみなさん。ホーム職員の手話をつうじて解説しました。

○姉妹都市ウエタスキウィン市のみなさん

開町100年記念式典で来町。公民館にあった化石作業所をご存じの方もあり, 懐かしく懇談しました。右端は, 特別功労表彰の柳本浄人さん。

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

No. 97

2008年 10月22日発行

089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 電話 0156-25-9100 ファックス25-9101

Eメール staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp> (博物館だよりpdf版あり)

足寄動物化石博物館 開館から10年

開館以来10年間、足寄動物化石博物館はなにをしてきたのか、連載しています。

8 この10年にひろめたこと(3)

足寄動物化石博物館は、最初の計画段階から「十勝を視野にいたした活動」という基本方針で運営を進めてきました。

この10年、「足寄の化石」の説明だけでなく、**十勝平野の成り立ちや貴重な地学現象**(湯の滝, シオワッカ, K/T境界層, 温泉, 十勝石など)について、講演・講習や執筆をおこない、それらの意義やおもしろさを紹介してきました。なかでも、足寄町内の地質現象は貴重なものがおおく、重要なテーマとして取り組んでいます。

町内の出前講座や依頼された講演でとりあげたテーマ「喜登牛山」を紹介します。

○ふるさとの山=喜登牛山

足寄市街周辺には、みなさんが「火山灰」とよぶ白っぽい崖があちこちにあります。多くの町民は、雌阿寒岳から飛んできた、と認識されているようです。しかし、それは誤解です。十勝東部のいわゆる火山灰は、およそ300万年前に喜登牛山一帯から噴出した火砕流なのです。総合体育館などの地質調査(ボーリング)によると、火砕流の厚さは数百メートルに達します。その頃、十勝地域の中心部には南から海が入りこんでいて、火砕流はその海にも流れ込んだらしいのです。喜登牛山の火砕流は十勝北部の基盤をつくったのです。

足寄町の水道は、喜登牛山起源の火砕流、いわゆる火山灰から湧きでる地下水を利用しています。また、町内の国道などの基礎にも利用されています。

十勝北部の基盤をつくり、足寄町民に飲み水を与え、まちの北方に堂々とひろがってる喜登牛山は、足寄町民にとって**ありがたく向かいあう「ふるさとの山」**といえるのではないのでしょうか。



町並みの上にひろがる喜登牛山

休館日 || 11月 4日 11日 18日 25日 の火曜日

博物館の動き 11月 (館の行事や職員の動き、来館団体、など)

5日	阿寒湖小学校理科授業の支援	22日	更別村学童保育所のみなさん
8~	道東3管内博物館交流推進会議	23日	幕別マザークラブのみなさん
9日	(根室市)	27日	上士幌町小学校理科授業の支援
20日	JICA南アジア理科教員養成大学の先生		